

解答

一

- 問一 ー ア 2 エ 3 ウ
- 問二 イ
- 問三 森の中（にいる私がそこを）川の下（川の中）（のよう感じて、）（銀色の）シジミチヨウ（を）小さな魚（のようだと思ったこと）。
- 問四 ー 兄さんはわたしの帯にひもをつけ、長くのはしておくにはいい、ひもをひっぱることでお互いにあいを送ることができる（という仕組み）。 2 エ
- 問五 ー 戦争がはげしくなり、男の人は徴兵されて亡くなってしまった（ということ）。 2 イ、カ
大声をあげ
- 問六 ー （ユキコボシは）土と一緒にいていねいに掘りおこし、そっと運んできても根づかずに枯れてしまう（という経験）。 2 そして、ユ
- 問七 ー 森のしずけさ、しっとりした空気、あのみどり色の川底のようなしめり（のあるところ）
- 問八 森のしずけさ、しっとりした空気、あのみどり色の川底のようなしめり（のあるところ）
- 問九 四

二

- 問一 干…ひ（からびた） ヨハク…余白 ゲンセ…現世 ケントウ…見当 ヨウリヨウ…要領
カイコ…蚕
- 問二 a イ b ア
- 問三 ー オ 2 ア
- 問四 蓑虫自身は
- 問五 ウ
- 問六 昨日の哲学
- 問七 ウ、オ
- 問八 ー イ 2 エ
- 問九 ア
- 問十 ウ、エ

解説

一

- 問五 ー ③の少し前にある、「それからいくさが」で始まる一文の内容を踏まえて考えます。兄さんも、その友だちも帰らなかったという内容から、戦争がはげしさを増し、兄も友だちも兵隊として戦地へ赴き、命を落としたことがわかります。 2 兄さんたちが戦死したことに對する気持ちとしてふさわしいものを選びます。すると、嘆き、怒りを表す選択肢イの「いきどおり」と、くやしさを表す選択肢力の「無念さ」があてはまります。

- 問九 ー ⑥にある「ちょっとふくれて」に着目します。わたしがユキコボシを持ち帰ろうとして兄にとめられ、不満を抱えている描写は□ウの場面にあります。

二

- 問五 「昔の学者などの中には」で始まる段落に着目すると、「そんな人は、わきめにはこの蓑虫と変わったところはなかったかもしれない。」という記述があり、蓑虫を「昔の学者」のようだと感じて「小哲学者」にたとえていることがわかります。そこで、「ただ蓑虫とちがうのは」で始まる一文の内容が「小哲学者」にあてはまらないことがわかり、選択肢ウが選べます。

- 問十 「詩的」という表現に着目しながら考えると、歳時記に出てきた現代人の思いもつかないような考えを表している選択肢ウ、エがあてはまります。選択肢ア、イ、オ、カの内容は筆者の説明する蓑虫の姿を表しています。